

のびのび 田底っ子

第6号

文責：校長 益永 一幸

「愛のある覚悟」～雨にもあてず～

雨にも負けず 風の強さにも負けず
雪にも 夏の暑さにも負けぬ 丈夫な体を持ち
欲はなく 決して怒らず いつも静かに笑っている
1日に玄米四合と 味噌と 少しの野菜を食べ
あらゆることを 自分の勘定に入れずに
よく見聞きし分かり そして忘れず
野原の松の林の陰の 小さなかやぶき小屋にいて
東に病気の子供あれば 行って看病してやり
西に疲れた母あれば 行ってその稲の束を負い
南に死にそうな人あれば 行って怖がらなくてもいいと言い
北にケンカや訴訟があれば つまらないからやめろと言い
日照りの時は涙を流し 寒さの夏はオロオロ歩き
みんなにデクノボウと呼ばれ ほめられもせず 苦にもされず
そういう者に 私はなりたい

左は宮沢賢治の「雨にも負けず」という有名な詩です。むやみに怒ったり興奮したりすることなく静かに笑っている、自分の損得を考えない、周りの人のことを気遣い行動する、みんなにほめられたりするような名声は求めない、宮沢賢治の生き方が示されています。

私のような凡人でも、少しでも意識して実践し成長していきたいと思います。

子どもたちにぜひ読ませたい詩の一つです。

さて、右の詩は「雨にも負けず」をもとに子どもの姿を風刺した「雨にもあてず」という作品です。これは賢治のふるさと盛岡市で医師の学会が行われた際、一人の小児科医が紹介されたものだそうです。ある学校の校長先生が作られたとのこと。

「子どもは社会を映す鏡」とも言われます。子どもに対する本当の愛情（私は「愛のある覚悟」と言っています）をもって、未来を豊かに切り拓く子どもたちに育ててほしいと願っています。

もうすぐ梅雨に入り、時には雨や風の日もあると思います。だからといって車で送迎することは、まさに「雨にもあてず風にもあてず」です。丈夫な体を持ち、少々のことではくじけないたくましい体と心を育てていきたいですね。

雨にもあてず 風にもあてず
雪にも 夏の暑さにもあてず
ブヨブヨの体に たくさん着こみ
意欲もなく 体力もなく いつもブツブツ不満を言っている
毎日塾に追われ テレビに吸い付いて遊ばず
朝からアクビをし 集会があれば貧血を起こし
あらゆることを 自分のためだけ考えて省みず
作業はグズグズ 注意散漫すぐに飽き そしてすぐ忘れ
立派な家の 自分の家に閉じこもっていて
東に病人あれば 医者が悪いと言い
西に疲れた母あれば 養老院に行けと言い
南に死にそうな人あれば 寿命だと言い
北にケンカや訴訟があれば 眺めて関わらず
日照りの時は冷房をつけ
みんなに勉強勉強と言われ
叱られもせず 怖いもの知らず
こんな現代っ子に 誰がした